

『実用中医薬膳学』 第1版第5刷 訂正箇所

p18 表1 補法の食材と中薬

上から2項目目 「清補法」の分類に「清熱」を追加

p83 上から6～7行目 「……肺気を養い、」の後を以下に変更

くるみ・生姜・ねぎ・香菜で肺を温め、滋陰補氣の黄精・滋陰潤肺の枸杞子で肺陰を養う。

p93 表3 不健康な体質の特徴

項目の順序を、上から「気虚」「血虚」「陽虚」「陰虚」の順に並びかえる
(「陽盛」以下は変更なし)

p237 上から2～3行目 (中医学からみると、……考えられる。)を以下に差しかえ

中医学からみると、慢性疲労とは、五臓六腑の精氣がさまざまな原因により消耗し、虚損するために現れる臨床表現である。しかし、さまざまな慢性虚弱証候の総称である「虚劳」病とは異なり、「虚劳」の前段階の症状と考えられる。

p280 上から16行目 「食材」の、「黒ごま・松の実」を文末に移動

p316 「血瘀阻滯証」の「症候分析」を以下に差しかえ

〔証候分析〕

寒邪内侵または瘀血阻絡のため胸陽不振となる。胸は心が位置する場所のため、胸陽不振は心陽不振を引き起こし、温養ができなくなる。すると、氣血の運行が阻害され、「不通則痛」により痛証を引き起こされる。

p338 下から4行目

主要な病機は陰虚が「本」であり

→主要な病機には陰虚と燥熱がある。陰虚が「本」であり

p339 上から3～4行目 「過食症状がみられ、」を以下に差しかえ

→水穀の消耗が進み、氣血の本である水穀精微の生成が不足となる。

p368 上から1行目

もあげられる。→も古典に示されている。

上から7行目

の病名がつけられている。→の病名に分類している。

上から8行目 「皮膚疾患の」の前に以下の文を追加

臨床では発病の時期、皮膚損傷の状態により区別することが多い。